Symposium:
Landscape Representation of the 21st Century Art
— The Recognition of Nature and Construction of Landscapes
Gail Levin  Hans Dickel
Liu Chengji  Krystyna Wilkowzewska

国際シンポジウム
21世紀の風景表象 — 風景の構築と自然の認識 —

主催■立命館大学国際言語文化研究所、日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(B)(課題番号:22320031)
「認識と構築の自然の風景像—21世紀の風景論」
後援■美学会

9:30 受付開始
——進行：妻 真理子 (大阪大学)
10:00 開会挨拶
10:10 シンポジウムのテーマ説明

【第1部】 10:30-13:00 (全訳資料・通訳あり)
ゲイブ・レーヴィン (ニューヨーク市立大学)「ジャクソン・ポロックとリー・クラスナー、自然の新概念」
ハンス・ディッケル (フリーダリヒ・アレクサンダー大学)「自然とテクノロジーを結ぶ芸術作品」
——ディスカッサント：仲間 裕子 (立命館大学)

【第2部】 14:00-16:45 (全訳資料・通訳あり)
劉 成紀 (北京師範大学)「中国美学の農耕文化的特性と景観表現」
クリスティーナ・ウィルコッスカ (ヤギェォウ大学)「風景と環境」
ラッファエーレ・ミラーニ (ホローニ大学)「美的対象としての風景美術」——紹介とコメント：加藤 謙寿枝 (立教大学)
——ディスカッサント：前田 茂 (京都教育大学)

【第3部】 17:00-18:00 (通訳あり)
パネル・ディスカッション
「21世紀の風景表象 — 風景の構築と自然の認識 —」
——司会：仲間 裕子
18:00 開会挨拶
19:00 恭親会

2011年10月1日(土)
立命館大学衣笠キャンパス
創思館 カンファレンスルーム
自然のテーマは、美学・美術史研究においても、地球規模の自然破壊の進行という現実とともに必要性を増しています。そうした機会に新たな自然がわれわれに現れる場として、この「風景」が、従来の伝統的な枠組みを超えた新たな研究の中心に置かれるべきだと思われます。今世紀の緊迫した状況における「時代の風景論」は、ままだあるという事に加えます。国際シンポジウム「21世紀の世界史革一風景の構成と自然の認識」はこうした視点下に、芸術が擁した時代の自然意識を解明し、作品が自立する自然概念を分析する試みです。それらの歴史・文化・アイデンティティを顧慮する国際的な共同研究として、差異の認識に基づきながら、グローバル化した自然問題とかかわる新たな風景論を探求します。

【パネリスト】

ゲイル・レヴィン Gail Levin
ニューヨーク市立大学パラック校総合芸術学部特別教授、エドワード・ホッバー、国古遺雄、ジャクソン・ポロックなどの研究者として知られ、日本でも多くの大学や美術館で講演。著書、共編著に『リーバー・クラスター＝伝』（2011）、『芸術家ジュディ・シーガの誕生』（2007）、『論理学と視覚芸術』（2006）、『アーガン・コーダ＝プラス・アメリカ文化の座標』（2000）、『エドワード・ホッバー＝伝』（1993）他多数。またアメリカ国内大経済会のゲストを行ったり、巡礼旅行、Abstract Experiences: The Formative Years（1978）は、日本（西武美術館）でも講演された。

ハンス・ディッケル Hans Dickel
フリードリヒ・アレクサンダー（エアランゲン）大学芸術史研究所教授。近代美術の研究者で、ハーヴァード大学、プラハ大学などでも教授を務める。著書、共編著に『1960年代以来の写真制作ティストップフック』（2008）、『第二の自然としての芸術』（2006）、『都市芸術の変容』（2003）、『クリスチャン・ボルタンスキー』（2005）他多数。2012年に、京都国立西洋美術館、新国立美術館で講演。近年はグループ展で、研究プロジェクト「エアランゲン大学芸術系属の北欧現代芸術の版画・浮世絵作品」の代表を務める。第33回国際美術史学会（2012年、ニュルンベルク）組織委員会委員。

刘成熹 Liu Chengxi